

**令和2年度 滋賀県介護職員職場環境改善支援
(介護ロボット導入支援)事業費補助金 導入効果報告書**

| | | | |
|--|--|-----------|------------|
| 法人(事業者)名 | 社会福祉法人 長浜市社会福祉協議会 | | |
| 介護事業所名 | リハビリデイサービス湖北 | | |
| 介護保険事業所番号 | 2570300968 | サービス種別 | 通所介護 |
| 所在地 | 滋賀県長浜市湖北町速水1860 | | |
| 利用定員 | 35人 | 介護ロボットの種別 | 移乗介護(非装着型) |
| 介護ロボットの製品名 | 移乗サポートロボット Hug L1 | | |
| 見守り機器の導入に伴う通信環境整備の有無 | 有 / 無 | | |
| 導入時期 | 令和3年 3月 | 導入台(セット)数 | 1台 |
| リース・レンタルの場合の契約期間 | 年 月から令和 年 月まで | | |
| 【1. 介護ロボットの使用状況】 | | | |
| ※見守り機器の導入に伴う通信環境整備のみの場合は、見守り機器の使用状況を記載すること。 | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・導入当初に全ての職員が、実際に機器を使って介護する側・される側両方の体験を行った。その際に、機器使用に対する不安感や否定的な感想を持った職員も数名いたが、概ね使用には前向きであったため使用を開始した。 ・毎月の職員会議で機器を使用する利用者の選定と使用場面、介助方法の検討を行い、併せて機器利用に不安を持つ職員へ、実技を含む研修を毎月実施している。 ・上記の検討の結果、現在は主に機能訓練時、リハビリマシーン5台を順番に使用される方の移乗時とトイレでの排泄介助時に使用している。 ・当初の目的としていたケアマネさんへの広報活動はコロナ禍の影響もあり、実際に見てもらうことはできていない。現状、使用している利用者様の担当ケアマネには個別に口頭で紹介はできているが、広報誌やお便りでのお知らせも予定はしているが実施できていない。 | | | |
| 【2. 介護ロボットの導入効果・通信環境の整備効果】 | | | |
| ※目標の達成状況等をもとに、数値を用いてできるだけ具体的に記載すること。 | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・機器使用により、2人での移乗介助が必要であった方3名の移乗介助が職員1人で介助可能になった。そのため、機能訓練のマシンを、利用者が使用したい時に待つことなく使用可能になった。 ・職員からは、身体の負担は明らかに軽減された実感が得られたと、ほぼ全ての職員から意見が出ている。また、身体的負担だけでなく、利用者を待たせることなく要望に応えられるようになったことや、力を入れずに安全に移乗介助ができるようになったことでの精神的な負担も軽くなったとの意見もあった。 ・導入後約1年が経ち、機器の使用は全職員が可能となっている。介助時の自らの身体への負担を感じる回数も減っているが、統計は取れていない。(当該業務に関しては心身の負担を感じる職員はゼロとなった。) | | | |
| 【3. 一定の要件を満たす事業所における導入の効果】 補助率3/4適用事業所記載必須 | | | |
| ※補助率4分の3の適用を受た場合は、上記2に加え、下記①②を記載し、①と②が異なる場合は③も記載すること。 | | | |
| ① 計画 | 介護ロボット等の導入後に見込んだ介護職員等の人員体制(事業計画書に記載した内容) | 有 / 無 | |
| ② 実績 | 介護ロボット等の導入後の介護職員等の人員体制 | 有 / 無 | |

③ ②導入後の介護職員等の
人員体制が、①導入計画時に
立てた見込みと異なる場合はそ
の理由

【4. 導入後の課題と対応策、介護ロボットの不都合な点など】

※導入後に生じた課題やそれに対する対応策(方針)や、介護ロボットの不都合な点などを記載すること。

・両脇に機器を差し込んで使用する特性上仕方がないのかもしれないが、使いたいと思う体格の良い方ほど使えない、というジレンマが生じている。(機器が差し込めない。)これからどんどん体格の大きな方が増えると思われるため、そのような方に対応できるよう改良されると良い。

・同様の福祉機器にも同じことがいえるが、やはり「人がやった方が早い」という職員の感覚が抜けない。利用者の意識も同様であるため、事業所に1台程度の導入では浸透させるのは時間がかかる。複数台導入して、機器使用が普通の状態になればそのあたりが改善されるのではないかと思っている。

※ 「介護ロボットの種別」欄は、移乗介護(装着型)、移乗介護(非装着型)、移動支援、排泄支援、見守り、コミュニケーション、入浴支援、介護業務支援の別を記載すること。

※ 複数種別または複数種類の介護ロボットを導入した場合は、種別・種類ごとに作成すること。

**令和2年度 滋賀県介護職員職場環境改善支援
(介護ロボット導入支援)事業費補助金 導入効果報告書**

| | | | |
|--|---------------------------------------|-----------|------------|
| 法人(事業者)名 | 社会福祉法人恩賜財団済生会支部滋賀県済生会 | | |
| 介護事業所名 | 介護老人保健施設ケアポート栗東 | | |
| 介護保険事業所番号 | 2551280015 | サービス種別 | 介護老人保健施設 |
| 所在地 | 滋賀県栗東市大橋二丁目8番2号 | | |
| 利用定員 | 100人 | 介護ロボットの種別 | 移乗介護(非装着型) |
| 介護ロボットの製品名 | 移乗サポートロボット ハグ | | |
| 見守り機器の導入に伴う通信環境整備の有無 | 有・ <input checked="" type="radio"/> 無 | | |
| 導入時期 | 令和3年3月 | 導入台(セット)数 | 2台 |
| リース・レンタルの場合の契約期間 | 年 月から令和 年 月まで | | |
| 【1. 介護ロボットの使用状況】 | | | |
| ※見守り機器の導入に伴う通信環境整備のみの場合は、見守り機器の使用状況を記載すること。 | | | |
| 職員もロボット操作に慣れ、日常業務に自然に組み込み利用することができている。 導入に際して、利用者に不安を与えないような説明も職員を選ばずに行えるようになっている。 | | | |
| 【2. 介護ロボットの導入効果・通信環境の整備効果】 | | | |
| ※目標の達成状況等をもとに、数値を用いてできるだけ具体的に記載すること。 | | | |
| 介護ロボットの導入をきっかけに、職員のノーリフティングケアへの認識が高まり、施設内での研修会を実施したり、他の福祉用具の使用頻度も高くなっている。 滋賀県福祉用具センター主催の「抱え上げない介護」の基礎研修、実践研修を管理職を含む複数名が受講し、施設全体で推進するための準備を進めている。 施設で、安心して立ち上がり、移乗ができることを利用者自身が実感して、自宅で同じ介護ロボットを導入したケースも複数出ている。 | | | |
| 【3. 導入後の課題と対応策、介護ロボットの不都合な点など】 | | | |
| ※導入後に生じた課題やそれに対する対応策(方針)や、介護ロボットの不都合な点などを記載すること。 | | | |
| まだまだ、全職員が介護ロボットを使いこなせるには至っておらず、必要性の理解の共通認識を得られているとは言い難い。引き続き、ノーリフティングケアを推進するための体制づくりを進めていくことが喫緊の課題である。 | | | |

※「介護ロボットの種別」欄は、移乗介護(装着型)、移乗介護(非装着型)、移動支援、排泄支援、見守り、コミュニケーション、入浴支援、介護業務支援の別を記載すること。

※複数種別または複数種類の介護ロボットを導入した場合は、種別・種類ごとに作成すること。

令和2年度 滋賀県介護職員職場環境改善支援
(介護ロボット導入支援)事業費補助金 導入効果報告書

| | | | |
|---|--|-----------|-------------------|
| 法人(事業者)名 | 社会福祉法人 野洲慈恵会 | | |
| 介護事業所名 | 特別養護老人ホームぎおうの里 | | |
| 介護保険事業所番号 | 2571300199 | サービス種別 | 地域密着型介護老人福祉施設生活介護 |
| 所在地 | 滋賀県野洲市富波甲1340番地1 | | |
| 利用定員 | 20人 | 介護ロボットの種別 | 移譲介助(非装着型) |
| 介護ロボットの製品名 | 移乗サポートロボット HUG | | |
| 見守り機器の導入に伴う通信環境整備の有無 | 有・無 | | |
| 導入時期 | 令和3年 1月 | 導入台(セット)数 | 1台 |
| リース・レンタルの場合の契約期間 | —年—月から令和—年—月まで | | |
| 【1. 介護ロボットの使用状況】 | | | |
| ※見守り機器の導入に伴う通信環境整備のみの場合は、見守り機器の使用状況を記載すること。 | | | |
| 利用者全員の個別アセスメントを行い、現時点では入所者の1割に当たる2名の方に使用している。しっかり持ち手をつかめること、足底がつくこと、使用することに理解ができることなどが使用条件となっている。 | | | |
| 使用時に前傾姿勢が強くなるため怖いと話される方には、職員が使用する様子を見ていただくなど、工夫を行っている。 | | | |
| 【2. 介護ロボットの導入効果・通信環境の整備効果】 | | | |
| ※目標の達成状況等をもとに、数値を用いてできるだけ具体的に記載すること。 | | | |
| 当事業所では、令和3年度よりノーリフトケア推進を宣言して介護実践を行っている。介護用機器では今回導入したHUGのほか、介護用リフトの整備を行い職員の腰痛予防に努めている。 | | | |
| その一環として実施している腰痛リスク調査では | | | |
| 痛みがある 17.0% → 6.9% | | | |
| 時々痛む 42.0% → 34.5% | | | |
| と前年に比べて改善傾向がみられている。 | | | |
| また腰痛による離職者ゼロが実現できていること、持病がある職員でも介護業務を継続できていることは効果として挙げられる。 | | | |
| 【3. 一定の要件を満たす事業所における導入の効果】 補助率3/4適用事業所記載必須 | | | |
| ※補助率4分の3の適用を受けた場合は、上記2に加え、下記①②を記載し、①と②が異なる場合は③も記載すること。 | | | |
| ① 計画 | 介護ロボット等の導入後に見込んだ介護職員等の人員体制(事業計画書に記載した内容) | | |
| ② 実績 | 介護ロボット等の導入後の介護職員等の人員体制 | | |
| ③ ②導入後の介護職員等の人員体制が、①導入計画時に立てた見込みと異なる場合はその理由 | | | |

【4. 導入後の課題と対応策、介護ロボットの不都合な点など】

※導入後に生じた課題やそれに対する対応策(方針)や、介護ロボットの不都合な点などを記載すること。

HUGについては、ADLやその日の体調、本人の意欲等により、常にその利用者に適しているとは限らないため、丁寧にアセスメントを行って運用する必要があることは前年から引き続いての方針である。

※ 「介護ロボットの種別」欄は、移乗介護(装着型)、移乗介護(非装着型)、移動支援、排泄支援、見守り、コミュニケーション、入浴支援、介護業務支援の別を記載すること。

※ 複数種別または複数種類の介護ロボットを導入した場合は、種別・種類ごとに作成すること。

(様式)

令和2年度 滋賀県介護職員職場環境改善支援
(介護ロボット導入支援)事業費補助金 導入効果報告書

| | | | |
|--|---|-----------|--------------|
| 法人(事業者)名 | 医療法人緑生会 | | |
| 介護事業所名 | グループホームクリーム | | |
| 介護保険事業所番号 | 2510101575 | サービス種別 | 認知症対応型共同生活介護 |
| 所在地 | 大津市大石淀三丁目2-2 | | |
| 利用定員 | 18人 | 介護ロボットの種別 | 移乗介護(装着型) |
| 介護ロボットの製品名 | HAL 腰タイプ BB04 | | |
| 見守り機器の導入に伴う通信環境整備の有無 | 有・無 | | |
| 導入時期 | 3年1月 | 導入台(セット)数 | 1 |
| リース・レンタルの場合の契約期間 | 年 月から令和 年 月まで | | |
| 【1. 介護ロボットの使用状況】 | | | |
| ※見守り機器の導入に伴う通信環境整備のみの場合は、見守り機器の使用状況を記載すること。 | | | |
| 入床時、起床時のベッド車椅子への移乗動作の介助の時、入浴時のシャワーチェア車椅子の移乗動作の介助の時、日常生活動作全介助の方のベッド上での体位変換、定位置への移動、排泄、更衣等荷重がかかる動作時に必要な時に活用中。 | | | |
| 【2. 介護ロボットの導入効果・通信環境の整備効果】 | | | |
| ※目標の達成状況等をもとに、数値を用いてできるだけ具体的に記載すること。 | | | |
| 職員18人中18人が、程度の違いはあるが腰痛症状がある。日常使いするには装着に手間がかかるので、頻繁に使うところまでには至っていない。ロボットを使うことにより介護者自身の身体的負担を軽減する為に活用を促しているところである。 | | | |
| 【3. 一定の要件を満たす事業所における導入の効果】 補助率3/4適用事業所記載必須 | | | |
| ※補助率4分の3の適用を受けた場合は、上記2に加え、下記①②を記載し、①と②が異なる場合は③も記載すること。 | | | |
| ① 計画 | 介護ロボット等の導入後に見込んだ介護職員等の人員体制(事業計画書に記載した内容) | | — |
| ② 実績 | 介護ロボット等の導入後の介護職員等の人員体制 | | — |
| ③ | ②導入後の介護職員等の人員体制が、①導入計画時に立てた見込みと異なる場合はその理由 | | — |

【4. 導入後の課題と対応策、介護ロボットの不都合な点など】

※導入後に生じた課題やそれに対する対応策(方針)や、介護ロボットの不都合な点などを記載すること。

ロボット装着が簡単ではないので、業務の中で日常的に使うことは困難である。ユニフォームの様に常に身に付けていられる物になると良いと思う。

※ 「介護ロボットの種別」欄は、移乗介護(装着型)、移乗介護(非装着型)、移動支援、排泄支援、見守り、コミュニケーション、入浴支援、介護業務支援の別を記載すること。

※ 複数種別または複数種類の介護ロボットを導入した場合は、種別・種類ごとに作成すること。